

# 公益社団法人 日本天文学会

## 2018年度事業報告書

### I. 出版物の刊行（定款第2章第5条2項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第70巻2号-6号、増刊特集号70巻SP2号、第71巻1号の計7回刊行。総論文数159編（うちLetter 7、分子雲衝突特集19、ひとみ特集13、飛騨天文台特集4、あかり特集13）、総頁数2,171頁、発行部数100部、偶数月25日発行。
2. 天文月報：第111巻5号-12号、第112巻1号-4号を刊行。総頁数882頁、総目次10頁、発行部数3,500部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集：2018年秋季年会発行総頁数301頁、450部印刷。2019年春季年会発行総頁数267頁、450部印刷。
4. ジュニアセッション：春季講演予稿集68頁、500部印刷。
5. 「シリーズ現代の天文学」4、10巻第2版を刊行した。

### II. 年会の開催（定款第2章第5条1項に該当の事業）

#### 1. 2018年秋季年会

2018年9月19日(水)から21日(金)の3日間、兵庫県立大学の姫路工学キャンパス（兵庫県姫路市）にて口頭講演10会場、ポスター講演1会場を使って開催した。講演件数は口頭講演が421件、ポスター講演が198件の合計619件、年会参加者は831名（一般500名、学生331名）であった。本年会では、通常講演のほかに天文教育フォーラムを含む特別セッション2件、企画セッション2件、進路相談コーナーも開催した。展示コーナーは1件の賛助会員による展示があった。また保育室を開設し5家族7名の利用があった。年会に先立ち9月18日(火)に兵庫県職員会館の多目的ホールにて記者発表(講演2件)を行なうと共に、本年会初日の特別セッションでは、その後の記者レクを含め7社の取材を受け入れた。会員全体集会において2018年6月の代議員総会で名誉会員とすることが承認された海部宣男氏に対して、名誉会員証を授与した。懇親会は9月20日(木)に行い、出席者は来賓3名を含む一般83名、学生39名の合計122名であった。年会開催後、9月22日(土)に姫路駅前「じばさんびる」にて公開講演会を開催し、120名が来場した。

#### 2. 2019年春季年会

2019年3月14日(木)から17日(日)の4日間、法政大学小金井キャンパス(東京都小金井市)にて口頭講演8会場、ポスター講演1棟2会場を使って開催した。講演件数は口頭講演が375件、ポスター講演が164件(うちポストデッドラインペーパー2件)での合計539件、年会参加者は910名(一般590名、学生320名)であった。本年会では、通常講演のほかに、天文教育フォーラムを含む特別セッション4件、林忠四郎賞・研究奨励賞受賞記念講演、進路相談コーナー、ジュニアセッションを行った。ジュニアセッションの講演数は56件、参加者は326名および会員50名であった。展示コーナーは2件の賛助会員による展示と2件の正会員による展示があった。また保育室を開設し6家族6名の利用があった。年会に先立ち3月13日(水)に法政大学九段校舎の会議室にて記者発表(講演3件)を行なうと共に、本年会初日の特別セッションでは、その後の年会3日目の記者レクを含めメディアの取材を受け入れた。懇親会は3月15日(金)に行い、出席者は一般83名、学生27名のほか招待者を合わせて計117名であった。年会開催後、3月24日(日)に一橋大学 一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋)にて公開講演会を開催し、171名が来場した。

### Ⅲ. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第 6-8 章第 36-57 条に該当の事業)

#### 1. 代議員総会

日 時：2018 年 6 月 2 日 (土) 13:00～16:30

場 所：京都大学東京オフィス 大会議室 A+B (東京都千代田区)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2018 年 9 月 20 日 (木) 11:30～12:30

場 所：兵庫県立大学姫路工学キャンパス・A 棟 1 階 A102 号室 (兵庫県姫路市)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2019 年 1 月 26 日 (土) 13:00～18:30

場 所：東京八重洲ホール 会議室 201 (東京都中央区)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2019 年 3 月 15 日 (金) 11:30～12:30

場 所：法政大学小金井キャンパス東館 1 階 E106 号室 (東京都小金井市)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

#### 2. 理事会

日 時：2018 年 5 月 19 日 (土) 13:00～18:00

場 所：京都大学東京オフィス 大会議室 A (東京都千代田区)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2018 年 9 月 19 日 (水) 19:30～21:00

場 所：姫路・西はりま地場産業センター じばさんびる 603 会議室 (兵庫県姫路市)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

議決日：2018 年 11 月 6 日 (木)

方 法：メールによる電磁的決議

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2019 年 1 月 12 日 (土) 13:00～17:00

場 所：東京八重洲ホール 6 1 2 号会議室(6F) (東京都中央区)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2019 年 3 月 14 日 (木) 18:30～19:30

場 所：法政大学小金井キャンパス 中央館 2 階 C203 会議室(東京都小金井市)

議 長：柴田一成 (議事録は学会ホームページに掲載)

#### 3. 会員全体集会

日 時：2018 年 9 月 20 日 (木) 15:45～17:00

場 所：兵庫県立大学姫路工学キャンパス A 棟 1 階 A101 号室 (兵庫県姫路市)

司 会：伊王野大介

日 時：2018 年 12 月 22 日 (土) 10:00～12:00

場 所：京都大学理学研究科 4 号館 5 階 会議室 (504 室) (京都府京都市)

司 会：伊王野大介

日 時：2019 年 3 月 16 日 (土) 15:45～17:15

場 所：法政大学小金井キャンパス 東館 2 階体育館 (東京都小金井市)

司 会：伊王野大介

#### 4. 公益社団法人 2017 年度監査

日 時：2018 年 5 月 11 日（金）14:30～16:00

場 所：国立天文台三鷹キャンパス 第 3 会議室（東京都三鷹市）

出席者：田中培生、立松健一、早野裕、柴田克典、伊王野大介、山下卓也、佐藤良信事務長、亀井久治公認会計士（オブザーバー）

#### IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の 22 の委員会と 1 の顧問において構成メンバー（任期 2 年の 2 年目）により各種活動が行なわれた。

##### ◇ 選挙管理委員会

会長候補者（任期：2019 年度～2020 年度の 2 年間）の選挙を定款第 17 条および会長・副会長・理事・監事選考細則に基づき行った。1 名の推薦があり、会長候補者とした。以上の選挙結果を天文月報 2018 年 12 月号において報告した。

##### ◇ 推薦委員会

本年度は代議員選挙が行われない年度であったので、活動は無かった。

##### ◇ 欧文研究報告編集委員会

2018 年度は、224 編の論文が投稿され編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を 6 号、増刊特集号を 1 号、合計 7 号発行し、159 編・2,171 頁を掲載した。増刊特集号として分子雲衝突特集を刊行し、通常号では X 線天文衛星ひとみ、飛騨天文台、赤外線天文衛星あかり特集を掲載した。IAU 総会(2018 年 8 月・ウィーン)では、ブース出展のほか、掲載論文を期間限定でフリーアクセスとするキャンペーンを実施した。編集委員会議を 2018 年 12 月 3 日に東京大学(本郷)で開き、査読手続・編集方針や投稿促進の為の対応を検討し、OUP 社とも PASJ の刊行状況や今後の展望などについて意見交換を行った。

##### ◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問会議を 2018 年 12 月 3 日に東京大学(本郷)で開き、国内に向けた投稿促進の対策、国際的な認知度向上のための方針などについて検討を行った。

##### ◇ 天文月報編集委員会

月に一度、Zoom 会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。4 つの特集（革新的超小型衛星の開拓する未来、岡山天体物理観測所、すばる望遠鏡 HSC、Astro-H(ひとみ))を組んだほか、連載記事「データ科学と天文学」を掲載した。また、天文学会声明「天文学と安全保障との関わりについて」の提言に至るまで関連する記事を「安全保障と天文学」シリーズとして掲載した。

##### ◇ 年会実行委員会

秋季年会（2018 年 9 月 19 日～21 日・兵庫県立大学）および春季年会（2019 年 3 月 14 日～17 日・法政大学）を開催した。両年会の準備にあたっては、2018 年 6 月 25 日および 2019 年 1 月 11 日に、国立天文台にて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催し、春季年会中の 2019 年 3 月 16 日に年会実行委員会を開催した。

##### ◇ 天文教育委員会

年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（日本天文教育普及研究会と共催）を開催した。次

年度の天文教育フォーラム開催分についても準備を開始した。講師紹介プログラムは 本年度 4 件依頼があり、3 件成立。天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

3 名の新委員を委嘱し、数回の会合及びメールによる議論の下、学会ウェブページの全面リニューアルについてサイトマップ及び仕様書を作成し、企画競争を実施した。不調であったため、2019 年度第二回企画競争に向けて原因を分析、対策を検討、講じた上で、仕様書の改訂を行った。並行して、全面リニューアル前までに必要であったページ数増加を伴う更新（「記者会見」ページ及び「名誉会員」ページの新規導入、「会長あいさつ」英語ページ導入等）、並びに委員会ページの整理・調整を行った。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2018 年 9 月号並びに tennet で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 9 日締切で会員に依頼した。11 月 24 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 1 篇を選出し、2019 年 1 月 26 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2018 年 9 月号並びに tennet で第 30 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2018 年 12 月 7 日に選考委員会を東北大学東京分室で開催し、候補者 3 名を選出し、2019 年 1 月 26 日に開催された代議員総会に推薦した

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 101 回から 104 回までの 4 回実施した。応募 47 件（前年 56 件）から 22 件（うち 1 件辞退）（前年 21 件）を選び、採択率は 47%であった。採択額は 5,022,798 円（前年 480 万円）、支給額は 4,762,632 円であった。

◇ 内地留学奨学金選考委員会

天文月報 2018 年 7 月号並びに tennet で 2019 年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行った。応募者から 1 名の奨学生(25 万円の支給)を決定した。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報 2018 年 9 月号で(第 18 回)天文功労賞候補者の推薦を会員に依頼し、0 件の推薦を受けた。2019 年 1 月 8 日に開催された選考委員会で、天体発見賞 8 氏 1 グループ(2 氏) 20 件、天体発見功労賞 5 氏 6 件、天文功労賞(長期部門) 1 氏 1 件、天文功労賞(短期部門) 1 氏 1 件の候補を選出し、2019 年 1 月の代議員総会に推薦した。

◇ 日本天文遺産選考委員会

2018 年度は以下の活動を行った。会議はメールによる意見交換を踏まえた簡易テレビ会議(Skype を利用)を数回行った。まず、実施スケジュールを作成し、滞りなく選考できるよう準備を行った。会員からの推薦様式を決定し、天文月報 9 月号および日本天文学会の web ページに掲載した。それに対応する会員からの推薦に基づき、第 1 回の候補 3 件を選考した。その際に必要に応じて遺産候補としての現状等の調査も行った。内規に基づき候補を 2019 年 1 月の代議員総会に諮った結果、1 件は保留となり 2 件が第 1 回日本天文遺産と決定した。決定した 2 件は、「明月記」と「会津日新館天文台跡」である。また、8 月に国立科学博物館筑波等で開催された国内研究会「学会

等における歴史的資料保全の取り組み」にて「日本天文学会による日本天文遺産認定制度の発足」と題して日本天文遺産について発表するとともに、他の学会による類似制度について情報収集を行った。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

天文月報 2018 年 7 月号並びに tennet で、第一回天文教育普及賞の推薦を 9 月 10 日締切で会員に依頼した。2018 年 10 月 3 日に明石市立天文科学館で選考委員会を開催し、候補 2 件（個人 1・団体 1）を選出した。そのうち一件については委員 2 名が 12 月に現地を視察、最終的に 2 件を選び、2019 年 1 月 26 日に開催された代議員総会へ推薦を行った。また賞状および副賞の楯を用意した。

◇ 天文教材委員会

インターネット版天文学辞典の内容の確認作業に委員有志が協力した。宇宙図制作委員会『宇宙図』宝島、2018 年の出版に協力した。昨年度に引き続き、具体的な活動の方向性を定めるための会議を、秋期及び春期の年会会期中に開催した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2019 年春季年会(法政大学)にて第 21 回ジュニアセッションを開催、予稿集を発行した。2019 年 2 月 2 日にプログラム編成会議を国立天文台三鷹キャンパスで実施したほか、随時各委員、世話人がメールで連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。年会ではタイからの発表 6 件を含め、合計 56 件の発表(口頭およびポスター)が行なわれた。参加者は、生徒や教員など 245 名、一般参加者 81 名、学会参加者約 50 名、合計約 380 名であった。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」において、天文教育委員会と共同で、中高生・教諭向けに相談会などを行った。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍した。また、天文学会年会中の託児費用が科研費などで支払えることの周知をした。春の年会では女性研究者の会と共催のランチミーティングを行い、その中で IAU の男女共同参画事業と連携し、有志の女性会員のビデオメッセージを作成した。2019 年 11 月に三鷹で開催予定の IAU シンポ“Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion – a roadmap to action within the framework of the IAU 100<sup>th</sup> Anniversary”も LOC として参加している。天文学会代議員推薦委員会への推薦を行い、代議員総会でのダイバーシティ推進も行った。2019 年度の男女共同参画アンケートに向けた準備を行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第 26 回衛星設計コンテストを実施した。最終審査会が 2018 年 10 月 27 日に福岡県久留米市にある久留米シティプラザで開催され、一次審査を通過した 16 件の発表と質疑応答があった。審査の結果、日本天文学会賞を九州大学大学院・九州大学チームのライトカーブインバージョン実証衛星に授与した。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

電子的に委員会で協議し、4 月 26 日に本年度の講演会登録を開始した。天文教育普及研究会の共催、日本学術会議の後援を取得した。7 月 7 日の七夕の日や、伝統的七夕の日(本年度は 8 月 17 日)を中心とした 6 月～9 月に、日本全国および海外(チリ)を含め 127 件の講演会が実施された。うち 78 件から参加者数が報告され、その総計は 11733 人であった。これに加え、幕張火星観望

会(報告は講演会参加者のみ)の来場者 5079 人、名古屋市科学館で行われた七夕に関するプラネタリウム番組は約 40 日で 36778 名が観覧した。

- ◇ キャリア支援委員会  
本年度は秋季年会と春季年会の期間中に「進路相談コーナー」を設置した。春季年会においては、日本天文教育普及研究会および本会の男女共同参画委員会との共催特別セッション「キャリアをどうデザインするか」を開催した。また、本委員会では今後のキャリア支援のあり方や方法について議論を行った。
- ◇ コンプライアンス委員会  
本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。
- ◇ インターネット天文学辞典編集委員会  
2018 年 4 月に公開された「インターネット天文学辞典」(<http://astro-dic.jp/>)の更新・改良・維持運用を行うことを目的に、定款第 2 章第 5 条 6 項に該当する事業として、2019 年 1 月の理事会にて「インターネット天文学辞典編集委員会」の設置が承認された。委員会では、毎月 1 回制作会議を行って、アクセス解析やコンテンツの改良等を行っている。利用者数は増加傾向にあり、特に大学学部や高等学校等で入試や授業にて利用されているようである。3 月 16 日、年會中行事として会員からの意見を聞く会合を開くなど会員からの意見募集に努めている。

## V. 各賞の授与(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

2018 年度日本天文学会各賞は、2019 年 1 月 26 日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

- ◇ 日本天文遺産(2件)
  - ・明月記
  - ・会津日新館天文台跡
- ◇ 天文教育普及賞(1氏、1団体)
  - ・黒田 武彦(くろだ たけひこ)氏  
国内外における長期的かつ広範な天文教育普及活動に対して
  - ・プラネタリウムの会  
地域施設を活用した長期的な天文教育普及活動に対して
- ◇ 林 忠四郎賞(1氏)  
大栗 真宗(おおぐり まさむね)氏  
東京大学大学院理学系研究科附属ビッグバン宇宙国際研究センター・助教  
研究の表題「重力レンズ天文学への基礎的貢献」
- ◇ 欧文研究報告論文賞(1編)  
論文題目: The Subaru FMOS galaxy redshift survey (FastSound). IV. New constraint on gravity theory from redshift space distortions at  $z \sim 1.4$   
著者: Teppei Okumura et al.  
出版年等: Vol. 68, No. 3, article id. 38, 2016 April
- ◇ 研究奨励賞(3氏)
  - ・澁谷 隆俊(しぶや たかとし)氏

北見工業大学 工学部・特任助教

研究の表題：「大規模観測データを用いた高赤方偏移銀河の統計的研究」

- ・ 仏坂 健太 (ほとけざか けんた) 氏

プリンストン大学宇宙科学研究科・Lyman Spitzer Jr. Fellow

研究の表題：「連星中性子星合体の電磁波対応天体に関する理論的研究」

- ・ 武藤 恭之 (むとう たかゆき) 氏

工学院大学 基礎・教養教育部門・准教授

研究の表題：「惑星とガス円盤間の相互作用に関する理論的研究とそれに基づいた原始惑星系円盤の観測的研究」

◇ 天体発見賞 (8名・1グループ, 20件)

- ・ 板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 8件 (メダル3個)

超新星 2018gv の発見, 超新星 2018iq の発見, 超新星 2018zd の発見, 超新星 2018aaz の発見, 超新星 2018enb の発見, 超新星 2018hna の発見, 超新星 2018imd の発見, 超新星 2018imf の発見

- ・ 西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 2件

新星 V1661 Sco の発見, 新星 V1662 Sco の発見

- ・ 坪井 正紀 (つばい まさき) 氏 2件

超新星 2018pv の発見, 超新星 2018apk の発見

- ・ 小嶋 正 (こじま ただし) 氏 2件

新星 V3664 Oph の発見, 新星 V5857 Sgr の発見

- ・ 西山 浩一 (にしやま こういち) 氏, 梶島 富士夫 (かばしま ふじお) 氏 1件

新星 V3665 Oph の発見

- ・ 中村 祐二 (なかむら ゆうじ) 氏 2件

新星 V435 CMa の発見, V392 Per の新星爆発の検出

- ・ 田中 勇司 (たなか ゆうじ) 氏 1件

超新星 2018ast の発見

- ・ 櫻井 幸夫 (さくらい ゆきお) 氏 1件

新星 V613 Sct の発見

- ・ 岩本 雅之 (いわもと まさゆき) 氏 1件

彗星 C/2018 Y1 (Iwamoto) の発見

◇ 天体発見功労賞 (5名, 6件)

- ・ 西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 2件

新星 V3665 Oph の独立発見, 新星 V5857 Sgr の独立発見

- ・ 小嶋 正 (こじま ただし) 氏 1件

新星 V3665 Oph の独立発見

- ・ 中村 祐二 (なかむら ゆうじ) 氏 1件

新星 V5857 Sgr の独立発見

- ・ 藤川 繁久 (ふじかわ しげひさ) 氏 1件

彗星 C/2018 V1 (Machholz-Fujikawa-Iwamoto) の独立発見

- ・ 岩本 雅之 (いわもと まさゆき) 氏 1件

彗星 C/2018 V1 (Machholz-Fujikawa-Iwamoto) の独立発見

◇ 天文功労賞

長期的な業績 (1氏, 1件)

- ・ 吉田 誠一 (よしだ せいいち) 氏

「彗星観測データベースのオンライン普及と新天体自動検索プロジェクトの主導」

短期的な業績（1氏，1件）

・小嶋 正（こじま ただし）氏

「ヘリウム激変星 SDSS J141118.31+481257.6 の珍しい増光の発見」

## VI. 助成金(定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業)

◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い総額約476万円の援助を行なった。（応募47件、採択22件（うち1件辞退）、採択率47%）

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：

賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（兵庫県立大学）、春季年会（法政大学）に参加して研究発表をするための一部補助を行った。（発表者：32名、総額57.7万円）

◇ 内地留学奨学金：

応募者1名から1名の奨学生(25万円の支給)を決定した。

## VII. 後援事業等(定款第2章第5条8項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの共催1件、後援15件、協賛7件を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先(代表者)
4/12	18年6月	後援	青少年のための科学の祭典2018	日本科学技術振興財団
5/24	18年9月	協賛	第46回可視化情報シンポジウム	一般社団法人 可視化情報学会
5/24	18年8月	協賛	女子中高生夏の学校2018	国立女性教育会館
5/30	18年9月	後援	第36回レーザセンシングシンポジウム	第36回レーザセンシングシンポジウム実行委員会/レーザ・レーダ研究会
6/6	18年7月	後援	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2018	特定非営利活動法人 natural science
6/6	18年9月	後援	第16回高校生科学技術チャレンジ	朝日新聞社
6/18	18年8月	後援	八重山高原星物語2018	薩摩川内市役所
6/18	18年8月	後援	幕張火星観望会	高校生天体観測ネットワーク
6/22	18年9月	協賛	Optics and Photonics Japan 2018	一般社団法人 日本光学会
7/20	18年9月	後援	第1回量子線イメージング研究会	量子線イメージング研究会実行委員会
7/31	18年9月	後援	三鷹の森科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」	特定非営利活動法人 三鷹ネットワーク大学推進機構
8/27	19年5月	協賛	日本地球惑星科学連合2019年大会	公益社団法人 日本地球惑星科学連合
9/5	19年10月	後援	平成30年「三鷹・星と宇宙の日」	自然科学研究機構国立天文台
9/14	19年11月	後援	第19回こどものためのジオ・カーニバル	こどものためのジオ・カーニバル企画委員会
11/12	18年12月	後援	京都産業大学益川塾第10回シンポジウム	京都産業大学、読売新聞社
12/26	19年11月	協賛	NASE-Japan 2019	NASE-Japan 2019 実行委員会
12/26	19年6月	共済	第44回光学シンポジウム	一般社団法人 日本光学会
2/4	19年3月	協賛	高校生天体ネットワーク全国フォーラム2019	高校生天体ネットワーク
2/20	19年11月	後援	第3回 Asia Pacific Conference on Plasma Physics	アジア太平洋物理学会連合
2/21	19年11月	後援	IAUシンポジウム358	国際天文学連合、国立天文台
2/22	19年8月	協賛	科学教育研究協議会第66回全国研究大会	科学教育研究協議会

2/26	19年9月	後援	日本流体力学会 年会2019	一般社団法人日本流体力学会
3/6	19年7月	後援	第48回 天文・天体物理若手夏の学校	天文・天体物理若手の会

#### VIII. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条7項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(島津奨励賞1件、東レ科学技術研究助成2件、山田科学振興財団研究援助3件、日本学術振興会賞1件、日本学術振興会育志賞1件)

#### IX. 会長選挙(定款第4章第17条に該当する事業、「会長・副会長・理事・監事選考細則」に準拠する)

2019～2020年度の会長候補者を選出する会長選挙を行った。

#### X. 学会員名簿の作成(定款第9章60条に該当する事業)

学会名簿を作成し、会員に配布した。

#### XI. 事務所活動(定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員3名と5名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

#### 会 員 数

2019年3月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2018年3月31日	2,118(505)	1,135	37	39	3,329
入 会	206(189)	67	1	1	275
退会・除籍等	△183(122)	△82	0	0	△265
移籍(増)	2(0)	9	-	-	11
移籍(減)	△9(1)	△2	-	-	△11
正会員へ(学生減)	△(73)				
2019年3月31日	2,134(498)	1,127	38	40	3,339

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責 庶務理事：伊王野大介)